

善仁寺寺報

ぜんじんじほう

発行日 平成二十三年七月三十日

第五号

発行人 青山 満
 発行所 東京都文京区小石川4丁目13番10号
 真宗大谷派 石川山 善仁寺
 電話 03(3861)4800
 ファックス 03(3861)32010
 メール kbkpm386@ybb.ne.jp
 ホームページ <http://zeninji.web.fc2.com>

「門徒もの知らず」?

今年も夏が始まりました。今年はどうな夏になりそうですか?

さて、今号はいきなり表題に

「門徒もの知らず」という言葉を掲げってみました。実はこれ 昔から浄土真宗の門徒を揶揄して使われた言葉なんです。なぜこの言葉をご紹介させていたただきましたかと申しますと、皆様より様々な質問を頂く中で、その多くは大雑把に「言葉は、この言で済むのです。」

「もの知らず」とは失礼な話ですよ。しかし、これは真宗門徒がどのような信仰と文化を伝えてきたかが分かる言葉なんです。

日本にはよく分からない習慣が多くあります。例えば「火葬場の帰り道は行き道と変えなくてはいけない」とか「葬儀を出した家は祝い事に出席してはいけない」、「葬式は友引は避ける」、「忌明けまで仏壇を封印しなくてはいけない」などなど、日本にはなにご

こんなにも決まりがあるのか、と思ってしまう。

この言葉はこのように補足できます。

「真宗門徒物忌み知らず」です。つまり真宗門徒の生活とは迷信に惑うことなく「知らない」のではなく「知っているけどそのようなことを問題にしない」という意味です。

本願寺第八世の蓮如上人はお手紙に次のように書かれておられます。(御文第一帖 九通目)

余道にいつかつることをえざれ、天を拜することをおえざれ、鬼神をまつることをえざれ、吉良日を見ることをえざれ、私たちは古いや吉凶禍福に惑わされ本心に大事なことを見過ごしているのかもしれないですね。

整理対象墓の管理者・縁故の方へ

現在、善仁寺境内墓地には管理者不明の無縁墓が多数あります。つきましては、法的手続きを踏まえ、平成二十五年より順次整理いたします。対象となるお墓には告知板を掲げます。

管理者の方、縁故の方は善仁寺までご連絡下さい。本来無縁墓の整理費用は所有者(墓管理者)にご負担頂くべき費用であります。

寺院維持運営は檀信徒の皆様の護持金(布施等)により支えられております。長期間に亘り護持金未納付、連絡先未通知といったごのなきようお願い申し上げます。

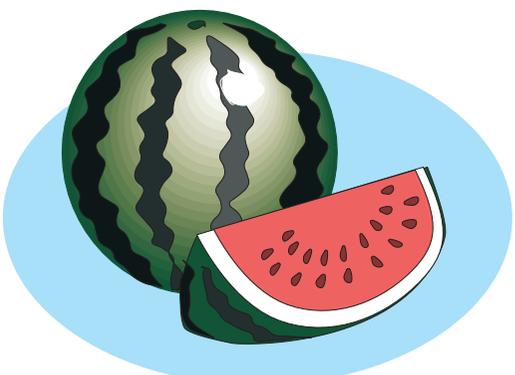


購読申込み

善仁寺寺報は当山檀信徒以外の方でも、どなたでもご購読できます。離れて暮らすご親族やご友人など、ご購読をご希望される場合は、お申込みください。毎号郵送致します。ご購読は無料です。発行は不定期です。

震災義捐金のご報告

今年三月末より東日本大震災の被災者の方々への義捐金を呼びかけております。志納所受付横に募金箱を設置しております。現在約四ヶ月経過で二万八千二百五十三円となりました。長期の支援が望まれると考え、引き続き設置いたします。お立ち寄りの際には、ご協力ご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



連載

仏陀く生涯と教えく ②

「唯我独尊」の解釈

さて、「誕生偈の言葉、よく耳にする」
 ことがあります。それは
 「唯我独尊じゃいかん」という様に
 使われることが多いですね。

「自分だけが正しい」という傲慢
 な態度を示す言葉としての意味が
 本心に仏伝の言いたいことなので
 しょうか。今回は二つの解釈を
 ご紹介します。

1つ目は文字通り「釈尊ただ一人
 が尊いお方」としての解釈です。
 釈尊の神格化として後世の仏教
 徒によって変えられたといので
 す。それは、本来は古い経典に
 釈尊のお弟子が「仏陀は世間で
 最も尊い存在」という讚えた言葉

を、生まれて間もない釈尊自身
 が発した言葉として仏伝が書きかえ
 られたといつのです。自分を神格化
 する言葉を自分で言うのだから傲慢
 な言葉として受け取られてしまった
 ようです。



2つ目の解釈は明治以降に日本で
 改めて示されます。それは、「誕生偈」
 をもって仏教の誕生の立脚地を示そ
 うとした。というものです。

「切衆生(すべての)いのち」が比べる
 ことのできない尊い存在である故に
 「いのち」「我」とは釈尊の「いのち」
 だけ、と限定されな「いのち」である。
 その「いのち」に対する仏教の基本的
 な立場の表明である。というものです。

仏教でいう「無我」とは「わたしの
 いのち」「わたしが生きる」「わたし
 が…」「わたしの…」と当たり前前の

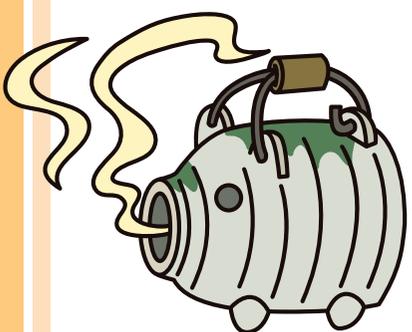
ように感じる「我(わたし)」という
 執着できる存在など、そもそも無い
 ということです。誕生偈でいう「我」
 ははたして何を指すのでしょうか。

現在では様々な表現で説かれます。
 いろんな方々の解釈を聞いたり、読ん
 だりすると面白いですね。



さて、ルンビニー園に戻りましょう。
 男児(釈尊)をお産みになった摩耶
 夫人は釈迦国へ帰国します。
 しかし、そこには悲劇がまっていたの
 でした……

「んん」



帰敬式希望者募集のお知らせ

当山において第二回帰敬式(おかみそり)を執り行い
 ます。生前法名を頂く式です。
 受式希望者の方はお申込み下さい。尚、以前より
 善仁寺同朋会(お寺の集まり)にご参加頂いており
 ます、当山檀信徒の方を対象。とご案内しておりま
 すが、今まで不参加の方も考慮いたしますので、ご相談
 下さい。詳しくは当山までお問い合わせ下さい。

- 募集定員 五名(先着順)
- 募集期間 平成二十三年九月二日～十二月末日
- 日程 平成二十四年二月～三月頃(予定)
- 受式費用 三～四万円程度(予定)

編集後記

今年も暑い暑い夏になりました。今年は電力供給不足
 が危ぶまれ、「節電の夏」がキーワードのようになって
 いますね。でも、エアコンを使わないのも、熱中症に
 ならない程度にほどほどにしましょう。

さて、今号で5号目となりますが、実は創刊号が昨年
 の八月十五日に発行しておりますので、創刊1周年
 となります。もう少し頻繁に発行したいのですが、
 ぐちゃぐちゃとみる、なかなか5号発行するのがやっと
 ですね。

でも少しずつですが、皆さんからの質問をもとに
 記事を書いたり、連載を試みたり、ご感想をお聞かせ
 下さる方がおられたり、楽しくなっています。
 次は十号発行を目指してみます。未永くお付き合ひ
 下さい。

今草

(じょうまん)